

(3) 水産の流通・加工の概況

本県水産加工業は、塩竈、石巻、気仙沼及び女川を中心とした大型産地魚市場への豊富な水揚げに支えられ、全国でもトップクラスの地位を築き上げてきました。

国際的な規制により、本県漁業が北洋漁場から撤退した後は加工原魚の多くを海外からの輸入に頼らざるを得ない状況ですが、現在でも常に全国上位の生産を誇っています。

県内における平成19年の製造品の業種別出荷額を見ても、食料品出荷額（6,014億円）のうち、水産加工品は2,817億円と実に食料品出荷額全体の約47%で、平成13年以降概ね50%を占めており、本県において極めて重要な地場産業であることが分かります。

イ 水産加工生産

水産加工業は、本県の地域経済を支える重要な産業として発展してきました。

しかし、近年漁獲量の減少に伴い県内産地魚市場への水揚げ量が減少していること、輸入原魚への依存度が高まる一方で世界的な水産物消費の増加により輸入原魚の安定確保が困難になっていること、国内における魚介類の消費が低迷していること等から、横ばい傾向にはあるものの生産量は全体的に減少しています。

また、生産額においても、生産量の減少に加え、量販店等川下主体の価格形成を余儀なくされていること等から、生産量と同様、減少傾向で推移しています。

平成19年度の本県水産加工品生産量は約40万トン（対前年比99.6%）、生産額（水産加工品製造出荷額）は2,817億円（対前年比104.7%）であり、前年に比べ多少の増減はあるものの、生産量、生産額ともにほぼ横ばいで推移しています。

品目別で見ると、生産量では、かまぼこ類を代表としたねり製品が73,230トン（対前年比0.6%増）、冷凍食品が43,509トン（対前年比4.4%増）と前年より増加しましたが、冷凍水産物が221,907トン（対前年比1.9%減）と減少しました。

一方、出荷額では、冷凍食品が811億円（対前年比2.5%減）と減少したものの、ねり製品が481億円（対前年比8.6%増）、冷凍水産物が318億円（対前年比14.3%増）と前年より増加しました。

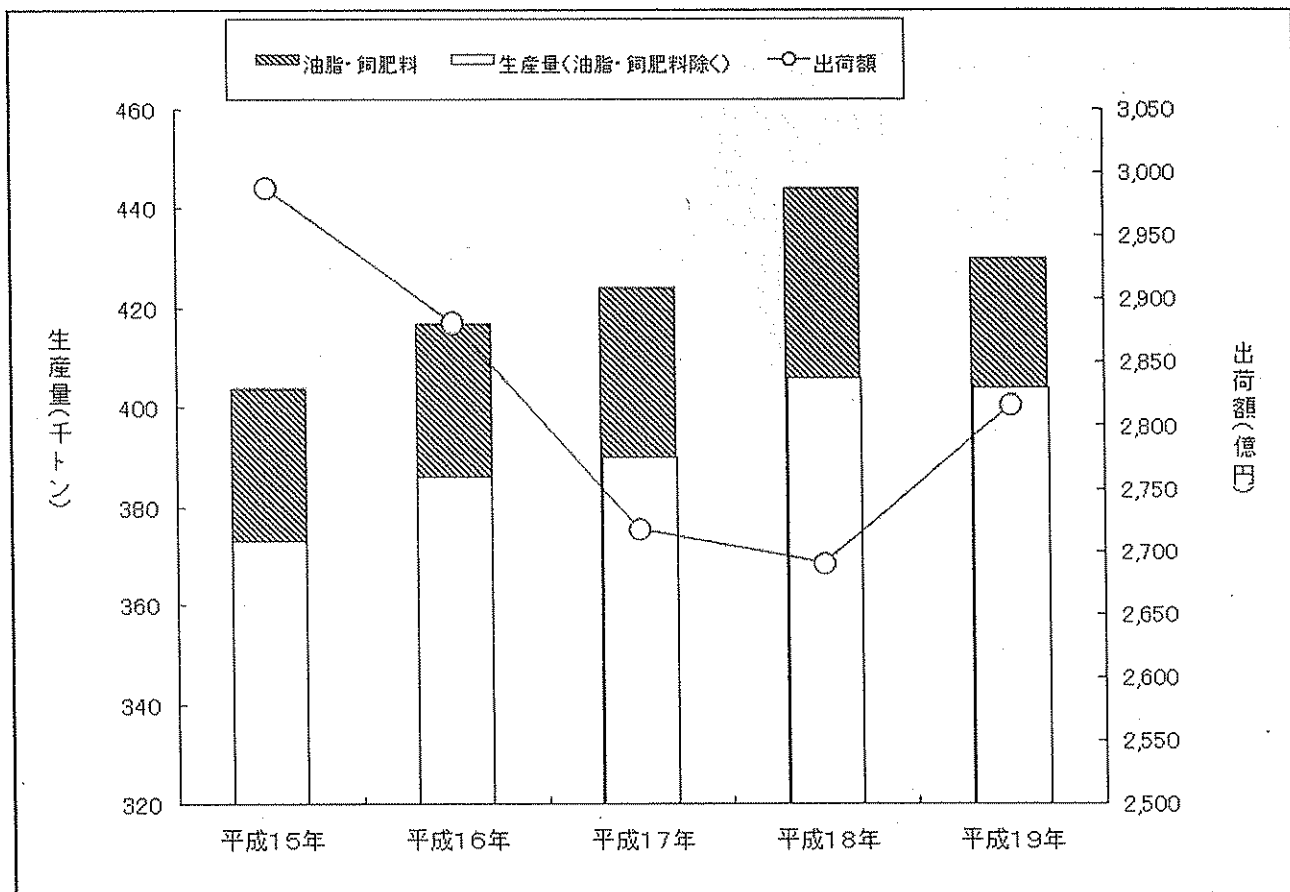
（単位：億円）

区分	平成15年		平成16年		平成17年		平成18年		平成19年	
		%		%		%		%		%
電気製品	8,908	26.0	8,729	24.8	8,254	23.1	8,344	21.9	8,828	24.9
食料品	6,164	18.0	6,035	17.2	5,737	16.1	5,886	15.4	6,014	16.9
水産加工品	2,988	8.7	2,882	8.2	2,719	7.6	2,691	7.0	2,817	7.9
その他	3,176	9.3	3,153	9.0	3,018	8.5	3,195	8.4	3,197	9.0
その他の製造品	19,228	56.1	20,372	58.0	21,711	60.8	23,954	62.7	20,674	58.2
計	34,300	100.0	35,136	100.0	35,702	100.0	38,184	100.0	35,516	100.0

資料：宮城県企画部「宮城県の工業」

表15 県内製造品出荷額の推移

（注）平成14年に統計区分が変わったため、平成14年以降の「電気製品」は、「電子部品」、「電気機械」及び「情報通信機械」の合計値として示した。



資料：東北農政局統計部「宮城農林水産統計年報」
 宮城県企画部「宮城県の工業」
 農林水産省統計部「水産物流通統計年報」

図15 水産加工生産量及び出荷額の推移

(生産量：トン，出荷額：百万円)

区分		平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
生産量	ねり製品	77,095	76,426	74,953	72,743	73,230
	冷凍食品	42,085	46,239	44,921	41,690	43,509
	干品(素干, 塩干, 煮干, くん製, 節製品)	6,256	5,307	4,697	4,340	4,779
	塩蔵品	31,459	29,289	25,793	22,989	24,115
	その他の食品加工品	37,728	42,704	45,853	37,712	36,691
	油脂, 飼肥料	—	—	—	—	—
	生鮮冷凍水産物	178,414	185,621	193,842	226,296	221,907
計	373,037	385,586	390,059	405,770	404,231	
出荷額	ねり製品	49,484	45,248	45,959	44,311	48,124
	冷凍食品	90,361	79,037	79,839	83,149	81,098
	その他の食用加工品	117,258	122,963	116,977	113,746	120,614
	冷凍水産物	41,695	40,895	29,109	27,858	31,846
	計	298,798	288,143	271,884	269,064	281,682

資料) 生産量：東北農政局統計部「宮城農林水産統計年報」
 出荷額：宮城県企画部「宮城県の工業」

表16 宮城県における水産加工品の生産状況

(注) 生産量については、平成13年から「調査対象を加工場又は加工施設があり、専従の従業員のいる経営体」としたほか、「油脂」、「飼肥料」、「寒天」及び「冷凍水産物」のうち「冷凍海産ほ乳類」、「塩蔵品」、「その他の加工品」の調査が中止され、加工種類及び調査品目についても追加・統廃合されている。

ロ 産地魚市場の水揚げ状況

本県には気仙沼、石巻、塩竈及び女川の主要4魚市場をはじめとした10か所の産地魚市場があり、そこに水揚げされる多種多様な水産物は、仙台や築地等の消費地市場を中心に全国各地へ出荷されています。

しかしながら、沖合漁業の対象種である主にイワシを中心とした多獲性魚種の資源量が低位水準かつ減少傾向にあること、また、沿岸においても資源量が総じて低水準にあること等から、長期的に見ると、本県産地魚市場における水揚量は減少傾向にあります。近年は、35万トン前後で推移しています。

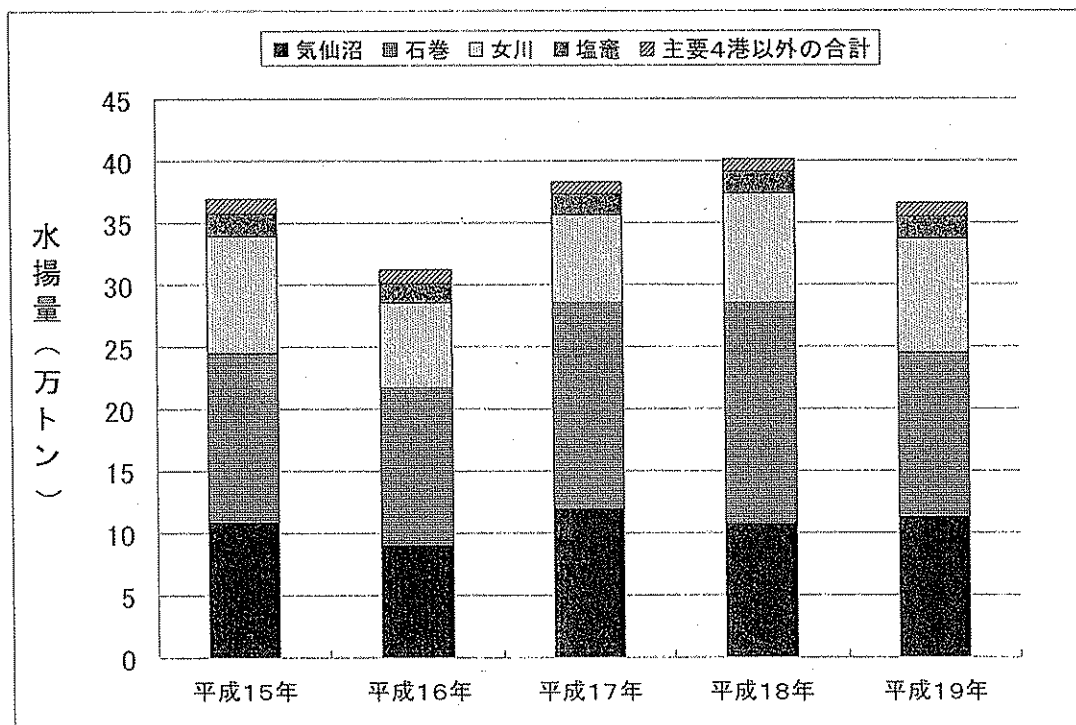
また、消費の低迷や安価な輸入水産物との価格競争等により水産物の水揚単価も全般的に低迷しています。

平成19年の本県産地魚市場における水揚量は36万6千トンと、前年に比べ3万6千トン・9.0%減少しました。しかし、水揚金額は705億円と、前年に比べ6千5百万円・10.2%増加しました。

魚市場別に見ると、数量では、石巻魚市場が132,902トン(対前年比25.4%減)と減少しているものの、石巻を除く主要市場では、塩竈市魚市場が18,981トン(対前年比2.5%増)、気仙沼市魚市場が112,310トン(対前年比4.8%増)及び女川魚市場が91,266トン(対前年比4.4%増)と増加しています。

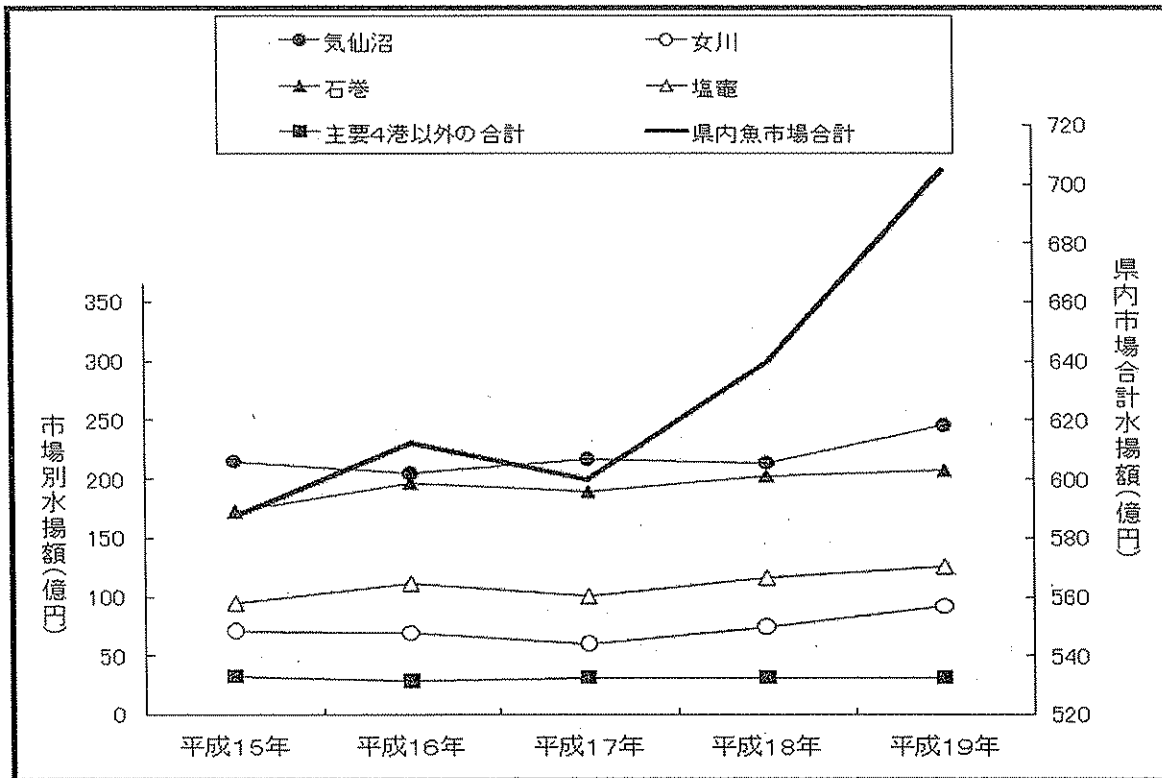
水揚金額では、気仙沼市魚市場の245億6千万円(対前年比15.0%増)をはじめ、塩竈市魚市場が126億1千万円(対前年比8.3%増)、石巻魚市場が207億4千万円(対前年比2.5%増)及び女川魚市場が93億3千万円(対前年比24.6%増)と主要市場は全て増加しました。

魚種別に見ると、さば、いわし類、たら類等の水揚げ量の減少が見られる一方、ほとんどの魚種の水揚げ金額が増加しました。



資料：宮城県農林水産部水産振興課「水産物水揚げ統計(属地統計)」

図16 県内産地魚市場の水揚げ量の推移



資料：宮城県農林水産部水産業振興課「水産物水揚統計（属地統計）」

図1.7 主な産地魚市場の水揚額の推移

(水揚量：トン，水揚額：千円)

魚市場名	水揚量			水揚額				
	対前年比	県内船	県外船	対前年比	県内船	県外船		
地方卸売市場塩竈市魚市場	18,981	102.5	5,846	13,135	12,608,219	108.3	2,624,138	9,984,081
地方卸売市場気仙沼市魚市場	112,310	104.8	33,880	78,430	24,564,074	115.0	9,726,340	14,837,734
石巻市水産物地方卸売市場石巻売場	132,902	74.6	78,135	54,766	20,794,478	102.5	12,544,211	8,250,268
渡波地方卸売市場	134	130.1	134	0	81,635	143.4	81,543	92
女川町地方卸売市場	91,266	104.4	61,848	29,418	9,325,042	124.6	6,512,998	2,812,044
南三陸町地方卸売市場	8,460	94.2	8,460	0	1,884,827	111.7	1,884,827	0
宮城県漁協上支所閑上地方卸売市場	138 (1,928)	71.1	138	0	117,453	67.4	117,453	0
地方卸売市場宮城漁協	595	104.2	595	0	491,039	92.9	490,980	59
亘理支所魚市場	(31,894)	106.4						
石巻市水産物地方卸売市場牡鹿売場	459	147.6	459	0	235,927	138.0	235,927	0
地方卸売市場宮城県漁協七ヶ浜支所	286	97.6	286	0	396,073	67.4	396,073	0
花刈浜魚市場	(14,927)	48.7						
合計	365,531 (48,749)	91.0 69.9	189,781	175,750	70,498,767	110.2	34,614,490	35,884,277

資料：宮城県農林水産部水産業振興課「水産物水揚統計（属地統計）」

表1.7 各産地魚市場の水揚 (平成19年)

(注) 水揚量の下段にある () 内の数値は、「養殖のり」の水揚量 (枚数：千枚) を示す。

○県内3地区の求評見本市

1 経緯

宮城県では、各地域毎に様々な農林水産物が生産されており、その背後には多くの食品加工業者がバラエティに富んだ商品を製造しています。

その中でも気仙沼、石巻、塩釜の3地区では、水産加工品を中心とした食品加工業者が多数集積しています。

上記3地区では、地方自治体や商工会議所等を中心とした実行委員会を設置し、地域の食材や加工品を一堂に展示する、求評見本市を開催しております。各地域それぞれ特色ある展示を行い、国内外からバイヤーを招待し、地元で生産される安全で安心な食材と加工品を紹介しています。

2 平成20年度開催実績

○第14回三陸気仙沼の求評見本市

主催：三陸気仙沼の物産展実行委員会

日時：平成21年2月17日（火）

場所：サンマリン気仙沼ホテル観洋

○第8回石巻フード見本市

主催：石巻フード見本市実行委員会

日時：平成21年2月18日（水）

場所：石巻グランドホテル

○2009塩釜フード見本市

主催：2009塩釜フード見本市実行委員会

日時：平成21年2月18日（水）

場所：ホテルグランドパレス塩釜



(第14回三陸気仙沼の求評見本市)



(第8回石巻フード見本市)



(2009塩釜フード見本市)

(水産業振興課)

○平成20年度農林水産祭で株式会社カネダイが日本農林漁業振興会 会長賞を受賞

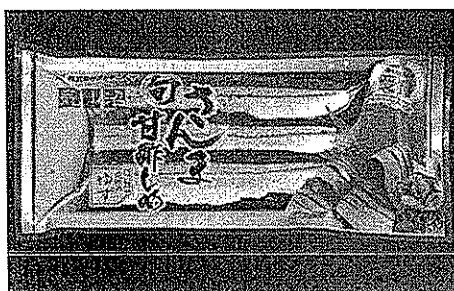
1 経緯

株式会社カネダイの「さんま甘酢しめ 北限のゆず入り」は、平成19年度に開催された第34回宮城県水産加工品品評会において、農林水産大臣賞を受賞した商品です。同商品は、翌年の第47回農林水産祭に出品され、10月15日に開催された農林水産祭中央委員会による厳正なる審査の結果、日本農林漁業振興会会長賞（天皇杯、内閣総理大臣賞に次ぐ第三席）を受賞しました。

2 概要

(1)受賞品の特徴について

「さんま甘酢しめ 北限のゆず入り」は、気仙沼港で水揚げされる旬のサンマと、北限となる気仙沼・大島で栽培されているゆずを原料とした、前浜に水揚げされる水産資源と地場産品のコラボレーションによる気仙沼オリジナル商品です。味付けはオリジナルの酸味の漬け込み液をベースに、女性や子供にも喜んで召し上がって頂けるようにマイルドな仕上げとなっています。また、生食にこだわり、新鮮さと健康イメージが伝わるパッケージのデザイン性や商品としての完成度も含め、高い評価を得た商品として、今後、宮城県の新たなお土産品として大きく注目される商品となっています。



写真：受賞品「さんま甘酢しめ 北限のゆず入り」(左)と調理例(中央、右)

(2)普及性と今後の展開

同社は、自社の高度な衛生管理技術を活かして、気仙沼に揚がる魚の商品化と普及に取り組んでいます。今後、気仙沼に水揚げされる水産物の中でも特に、現状では付加価値の低いサンマ等の魚介類を有効利用することで、地域全体の活性化につながるものと思われれます。



写真：佐藤社長と株式会社カネダイスタッフ

(水産業振興課)

○ 「三陸塩竈ひがしもの」ブランド化の取組が「第1回食材王国みやぎ推進優良活動表彰」で表彰

I. 「食材王国みやぎ推進優良活動表彰」の概要

本県の食産業事業者等の協働・連携によって「地産地消」, 「ブランド化」を推進することを目的に開催した「食材王国みやぎ推進パートナーシップ会議」第2回大会(平成20年9月8日)において, 「第1回食材王国みやぎ推進優良活動表彰」を実施しました。

「食材王国みやぎ推進優良活動表彰」は, 「食材王国みやぎ」の重点テーマである地産地消の推進やブランド確立の分野で先導的, 模範的な活動等を実践している方々を表彰し, 広く紹介することにより, 地産地消の推進やブランド確立を推進することを目的としています。

第1回目となる本大会表彰では, 地産地消部門, ブランド化部門からそれぞれ2事例ずつ, 計4事例について表彰及び事例発表を行いました。水産関係では, 塩竈市役所から推薦された塩釜市水産振興協議会の「三陸塩竈ひがしもの」ブランド化の取組が表彰されました。

【表彰団体】

部門	取組主体	活動内容
地産地消部門	亘理町	「荒浜漁港水産まつり」等のイベント, 料理教室, 小学校での総合学習, サケの稚魚放流等を通じ, 郷土料理の「はらこめし」を伝承・普及を実施。
	本吉町学校給食地域食材提供連絡協議会	平成14年から, 学校給食に町内で生産された野菜等を供給するとともに, 地元の学校関係者や子供達を対象に農作業体験学習等を積極的に実施。
ブランド化部門	塩釜市水産振興協議会	「三陸塩竈ひがしもの」(メバチマグロ)のブランド化
	(有)伊豆沼農産	「伊達の純粋赤豚」のブランド化

II. 「三陸塩竈ひがしもの」ブランド化の取組について

塩釜市水産振興協議会が主体となり, 平成15年度から塩竈市魚市場に水揚げされる水産物の中から全国的に通用するブランド魚を創出することを目的として, 水揚げの主力である生鮮「メバチマグロ」について, 市場流通機能や塩竈市魚市場の知名度を活用したブランド化事業に取り組みました。

その中で, 漁場や漁法・漁獲期間等のブランド基準を策定し, ブランドの名称を「三陸塩竈ひがしもの」として商標登録を行った他, ブランド販売戦略に関する研修会やロゴマークの作成, ブランド魚を扱う認定業者の選定及び彼らに対する研修会等を実施してきました。

平成19年10月からブランドイメージの確立と地元での知名度の定着を兼ね, 塩竈市仲卸市場及び塩竈市内の寿司店を販売対象として「三陸塩竈ひがしもの」の販売が開始されました。



【参考】「三陸塩竈ひがしもの」の主な認定基準

- ・ 親潮と黒潮がぶつかり合う三陸東沖漁場で, まぐろ延縄船によって漁獲される「メバチマグロ」
- ・ 秋口から冬場(9月から12月まで)に塩竈市魚市場に水揚げされる生鮮「メバチマグロ」
- ・ 1尾あたり40kg以上の魚体重がある個体で尾の部分の脂肪分が10%以上



(食産業振興課)

○第1回「富県宮城グランプリ表彰」

—気仙沼漁業協同組合、(株)木の屋石巻水産—

1 「富県宮城グランプリ」とは

平成19年3月に策定した「宮城の将来ビジョン」に掲げる「富県宮城の実現」に向けた機運醸成を図り、「富県共創！」の理念に基づき県民・企業各層の主体的な取組を促進するための表彰制度です。

2 概要

「富県宮城グランプリ」の対象は、県内に活動拠点を有し、3年以上の実績がある企業や個人、団体で県の産業発展や地域経済の活性化に対する貢献が顕著であり、県民にも相当程度認知されていると認められるものとしています。

平成20年度(第1回)は企業部門2企業、個人部門1個人、団体部門1団体、富県宮城グランプリ特別賞として企業部門1企業、個人部門1個人、団体部門2団体が表彰されました。

「富県宮城グランプリ」の表彰対象と定義

部門	対象	例
企業	営利を目的とした経済活動を行う法人及び個人	会社、個人事業主
個人	営利を目的としない私人	研究者、技術者、教育者、業界OB
団体	・企業を除く法人、組合、地方自治体 ・企業間・地域・産学官の連携組織等の任意グループ	市町村、協同組合、研究グループ、町内会、NPO

3 水産関係団体の受賞

「富県宮城グランプリ」の団体部門で気仙沼漁業協同組合が表彰されました。

近年、水産資源の減少や漁業用燃油価格の高騰等水産業を取り巻く厳しい状況の中、同協同組合は、カツオやサンマの水揚げで有名な気仙沼魚市場の卸売人として、水揚げ作業の効率化や漁船誘致の取組を積極的に進め、水揚げ金額の大幅増につなげる等、地域活性化への率先的な取組が評価されました。

また、富県宮城グランプリ特別賞の企業部門で株式会社木の屋石巻水産が表彰されました。

同社は、鯨食文化の普及や石巻の地域ブランドとして知られる金華サバの製品開発等、石巻地域の資源を生かした付加価値の高い、積極的な商品づくりが評価されました。

部門	受賞者	理由	推薦者
富県宮城グランプリ			
企業部門	加美電子工業株式会社	産学官連携による革新的な技術開発	加美商工会
	引地精工株式会社	高い自社開発率及び高い競争力	沼西市
個人部門	羽田祐一	みやぎ工業会前会長として製造業振興及び富県共創推進に貢献	社団法人みやぎ工業会
団体部門	気仙沼漁業協同組合	漁船誘致、魚市場活性化による水揚げ金額増	気仙沼市水産加工業振興協議会
富県宮城グランプリ特別賞			
企業部門	株式会社木の屋石巻水産	鯨食文化の伝承等地域資源を生かした製品づくり	石巻市水産加工業協同組合
個人部門	佐藤博樹	ものづくり人材育成に貢献	富県宮城高等学校工業教育研究会
団体部門	一宮商業高校地域活性化プロジェクトチーム	地域資源を生かした商品開発、地域の魅力発信	栗原市
	富県県大河原商業高等学校商業研究グループ	地元企業との連携による地元産の振興を促した商品開発	大河原町



表彰式の様子

平成20年度「富県宮城グランプリ」受賞者

(水産業振興課)